

実施する社会的事業内容

本事業の実施に当たっては、小中学校区単位で、民間（住民をはじめ企業や団体等）の「こんなことやってみたい」という発意・発想と「多様な人」、「食」、「教育」、「文化」、「環境」、「経済」、「農業」、「生活支援」などの地域資源・要素を有機的に結び付け、相互に呼応し合う好循環を生み出し、6つの新たな社会的価値を創出する社会的プロジェクト事業を行う。

① 安武町住民6000人の参加による「安武ほんによかね」プロジェクト《安武小校区》

【事業の目的】

- 多様な住民の支え合いの組織である「安武ほんによかね会」を立ち上げ、住民の参画を促し、地域の「高齢者等の生きがい対策」、「交通弱者」、「農業」など様々な社会的課題を解決する各プロジェクトを住民が総力を挙げ取組む体制を構築する。
- 地域活動への参画の機会が乏しい若い世代の活動参画（地域デビュー）を促す取組み、多世代が混ざり合い、各世代の生きづらさに気付き、世代を超えた支え合いが生まれる社会を目指す。

【事業の実施主体】

安武ほんによかね会

【事業の概要】

- i. 既存の地縁組織と連携した住民の支え合いの組織「安武ほんによかね会」及び「一般社団法人 ほんによかね会」の組織づくり
- ii. 地域活動拠点施設「そらまめ」の整備及び農産物直売所・地域食堂の運営
 - ・ ポレポレ祭り実行委員会等の民間団体からの資金提供を受け、空き店舗「JAくるめ安武直売所そらまめ」（以下、「そらまめ」）のバリアフリートイレの整備、食堂などの多機能をもつ拠点となるように改装を実施
 - ・ 「そらまめ」で地元農産物の直売（週1回）、住民による住民のための地域食堂（週2回）、イベントの開催など集える場づくり
- iii. 住民のための地域交通（乗合いタクシー方式）「あいあい交通」の普及・活性化「
- iv. 若い世代の地域デビューを促す「3ヵ月ママチャレンジ」
 - ・ 地域の子育て中の母10名を募集し、3ヵ月でオリジナルのもんぺやリズムを制作し、地域の保育園、幼稚園、デイサービス等で成果発表会を開催
 - ・ 若い世代の地域活動参画（地域デビュー）を進め、次世代の地域づくりの担い手の育成

② 「もう1つの家」プロジェクト《御井町小校区・安武小校区》

【事業の目的】

- 障害がある場合、いわゆる「親亡き後の問題」と評されるように保護者など主たる支援者がいなくなることにより、特に重度の障害がある場合住み慣れた地域を離れざるを得ない実態もある。

- 重度の障害があっても若い時から自立生活の訓練や体験を積み重ね、当事者が自立生活の見通しとスキルをつけ、住んでいる地域で日常的に食事提供や健康チェック等の生活支援を補助する互助の仕組みがあれば、自助・互助による新しい暮らしができる地域づくりを図る。

【事業の実施主体】

ポレポレ倶楽部

【事業の概要】

- i. 障害者の自立生活支援の取組
- ii. 住民の支え合いによる土日の支援

③ 障害児者の親の会等による「輪をつくろう」プロジェクト《江南中校区》

【事業の目的】

- 久留米市では1980年代から障害があっても地域の学校で共に学び、育つという統合教育の運動が進められ、当事者や教師など多くの人たちがつながり、多くの共同体（コミュニティ）を形成しながら、自助・互助により、親と教師の会はもちろん、土曜活動や共同作業所やなど様々な地域資源を生み出していった。その支え合いの活動は当事者（保護者を含む）の社会性の形成に大きく影響するだけでなく、その積み上げた信頼関係はそれぞれに、その後の人生を豊かにしている。
- しかし、今では統合教育への意識も変化しており、特別支援教育への流れが強まっている。また、小学校、特別支援学校では、保護者同士や教師のつながりが希薄化しており、コミュニティがなくなり、支え合う機会がなくなっている。そのため、相談支援を含めてサービス利用だけが頼りとなってきている。
- そこで、障害者の親の会である「久留米市手をつなぐ育成会」が主体となって、つながることの大切さを実感する障害児者の親たちが、江南校区にある5つの小学校、中学校に親の会を新たに立ち上げる。立ち上げた各学校の親の会が互いに交流の場を持ち、地域に顔の見えるつながりの広がりを図る。
- このことにより悩みや相談事を相談支援センターのような専門家ではなく、同じ地域に暮らすピア同士で気軽に相談し合える場をつくり、親同士の支え合いの機運の醸成を図る。これらのつながりにより、障害のある子どもと親が地域の学校や行事へ参画する機運が生まれ地域住民と共生する機会が増え、地域の障害者に対する理解が深まり、障害があっても排除されることなく受け入れられる地域の形成を目指す。

【事業の実施主体】

久留米市手をつなぐ育成会ほか

【事業の概要】

- i. 親の会の結成
 - ・ 江南校区にある5つの小中学校に呼びかけ親の会を立上げ
- ii. 交流会の開催

- ・ 各小学校・中学校で立ち上がった親の会の相互の交流の場づくり
- ・ 親たちの交流の場として、地元のレストランの協賛を得て食事会など
- iii. 地元企業と連携した安心スマホ教室の開催
 - ・ 発達に課題がある子どもの親と携帯販売会社が一緒に「安心スマホ教室」を開催。
- iv. 江南校区いいねマップの制作
 - ・ 結成した親の会が中心となり、アンケート調査、聞き取りを行い江南校区にある有益な地域資源を表した「いいねマップ」の作成

④ 幼稚園園長とおやじの会による「子ども農トレ」プロジェクト《山本小校区》

【事業の目的】

- 自然の中で親子が遊びを学ぶ機会、場所が身近にほとんどない中で手入れされず荒れた山林や耕作放棄地は増えている。このため、「認定こども園 久留米天使こども園」の園長が代表となり、おやじの会と共に耕作放棄地を整備し自然の中で遊び、楽しめる場として農園及び遊びの場の整備を図る。
- 自然での遊び、農作業など経験豊かな大人が様々な体験や遊びを親子に伝える機会を設け、多世代が混ざり合う新たな活動を展開する。

【事業の実施主体】

認定こども園 久留米天使こども園（おやじの会）

【事業の概要】

- i. 地域協働会議の開催
 - ・ おやじの会のメンバーと地元の地縁組織の代表等が、耕作放棄地の整備について協議
- ii. 耕作放棄地の整備
 - ・ おやじの会や地元住民が協働して耕作放棄地の整備及び農業体験、自然遊びができる環境を整備

⑤ 地域コミュニティマネージャーによる「次世代の担い手発掘」プロジェクト《諏訪中校区》

【事業の目的】

- 地域コミュニティが希薄化・脆弱化している中、地域の次世代を担う30・40代の人たちが地域コミュニティや社会的事業に主体的に参加する機会や意識はほとんどない。このため、既に社会的事業を展開している「visionAreal」がコミュニティマネージャーとして、地域に内在する若手の人材発掘から社会的事業の取組みを支援する。

【事業の実施主体】

visionAreal

【事業の概要】

- i. 校区の情報発信ができるホームページ制作と運営

- ・ 小学校高学年から高齢者までチームとなってホームページを媒体として校区にいる人や資源の情報を掲載する取組みを通じ地域づくりを担う人材の発掘

⑥ 「コミュニティ・オーガナイズ研修」プロジェクト《全校区》

【事業の目的】

- 地域住民らが協力し社会的課題を解決し行動するようなコミュニティづくりを行うための技法を体系的に学ぶコミュニティ・オーガナイズ研修を、本事業の社会的事業の実施者をはじめ、障害者基幹相談支援センターの職員等の専門家も受講するなどして多様な主体のスキルの底上げ、創出を図る。

【事業の実施主体】

コミュニティ・オーガナイズ・久留米

【事業の概要】

- i. コミュニティ・オーガナイズ研修の開催（12月15・16日）